

令和 3 年 6 月 11 日現在

機関番号：32614

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17K04642

研究課題名（和文）幼稚園におけるミドルリーダー育成のための現代的な研修システムの開発

研究課題名（英文）Modern training system for the development of mid-level leaders in kindergartens

研究代表者

神長 美津子（kaminaga, mitsuko）

國學院大學・人間開発学部・名誉教授

研究者番号：80353390

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、私立幼稚園のミドルリーダーの実態と育成の視点を明らかにすることを目的とし、園長・ミドルリーダー・新任に対して質問紙調査を行い、各教員が感じている園の雰囲気や園内研修の実状、ミドルリーダーへの期待等を把握した。ミドルリーダーは、クラス担任であることが多く、クラスを超えて新任指導、教職員間を繋ぐ役割やまとめ役を担うことが期待され、対応を困難に感じているケースもあり、その育成に向けて課題がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

幼稚園のミドルリーダー育成に関わる研究は少ない。本研究では、ミドルリーダーと園長の調査結果から、ミドルリーダーの勤務年数は6年から15年の割合が高いが、実際は十分なキャリアを積んでミドルリーダーになっていない実態が明らかになった。これを踏まえ、様々な職務を遂行しつつ、ミドルからミドルリーダーになっていく過程に焦点を当て、教師間の「関係の質」を改善し開かれた組織風土を作っていく新たな視点を提案した。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this study is to clarify the actual situation and issues of teachers who work as mid-level leaders in private kindergartens. In terms of methodology, we conducted a questionnaire about the school environment, the actual situation of training in the school, and the expectations of teachers as mid-level leaders, targeting the director, mid-level leaders, and new teachers. The results of the survey revealed that teachers in mid-level leader roles are often also classroom teachers who are expected to provide guidance to new teachers and to connect and organize teachers across classrooms. In some cases, mid-level leaders experienced difficulties in meeting these expectations. These results suggest challenges in developing mid-level leaders in kindergartens.

研究分野：幼児教育

キーワード：幼稚園教員 ミドルリーダー 組織風土 園内研修 ミドル 関係の質 幼稚園



ダーに必要な研修) 新任の指導(新任に身につけて欲しいこと、新任の指導でミドルリーダーとして配慮していること) ミドルリーダー自身のこと(年齢、保育現場の勤務年数、所有する免許・資格等)である。

新任教員への質問紙の内容は、新任自身のこと(年齢、保育現場の勤務年数、所有する免許・資格、クラス担任としての関わり) 勤務する園の状況(園の職務遂行状況と職員意識)

研修の経験(保育に役立った研修) 保育について(保育の中で抱えている問題、保育の相談相手、保育や子ども理解が深まった時、幼稚園教員としてのやりがい)である。

なお、本質問紙調査においては、園長、ミドルリーダー、新任それぞれに対して調査用紙に調査趣旨と内容、方法についての説明を記載し質問紙への回答を依頼した。また、その質問紙の回答をもって本アンケート調査に承諾が得られたと判断した。また、本調査については、國學院大學「ヒト研究等及びヒト由来試料研究等に関する倫理委員会」の承認(承認番号:R1第4号)と関西学院大学「人を対象とする行動学系研究倫理審査部」による「人を対象とする行動学系倫理規定」に基づく審査の承認(承認番号:2019-65)を得ている。

#### 4. 研究成果

質問紙調査結果から、ミドルリーダーの年齢は25歳から45歳位まで幅広い年代層に分かれ、全体の60%はクラスを担任している。一方で、主任・教務主任(34.0%)、学年主任(29.6%)の役職をもっている場合が多い。また、「他園での勤務経験はない」が47.5%に対して、「他園での経験を有する」は全体の33.4%を占めていた。現在の園での勤務年数は6年から15年の割合が高い。以下、各質問紙調査の分析考察より明らかになった主な内容である。

第一は、園長がミドルリーダーと考える理由(複数回答)には、「人との関わり」(62.0%)が最も多く、「意欲態度」(34.6%)「保育」(28.6%)「組織理解」(26.1%)であった。「人との関わり」に関する自由記述では、特にミドル以下の教職員との関わりに関する記述(35.2%)が多かった。次いで「教職員」(25.5%)となり、「リーダーシップ」(14.5%)「信頼」(13.8%)「保護者」(13.1%)「つなぐ」(11.7%)が続く。園長が描くミドルリーダー像は、教職員の間で、特にミドル以下の教職員との関わりを重視していると言える。

第二は、ミドルリーダーに対する質問紙調査結果から、「ミドルリーダーに求められる資質能力」と考える項目が、ミドルリーダーの年代によって異なることが分かった。全回答では、「全体の把握・まとめ役・連携・チームワーク」(13.4%)「新任・後輩・若手の指導・励まし・フォロー」(5.9%)「計画力・実行力・カリキュラムマネジメント」(5.5%)が多かった。30代のミドルリーダーは、全回答の傾向に近かった。20代のミドルリーダーは、全回答で3位と割合が高かった「計画力・実行力・カリキュラムマネジメント」についての回答が少なく、「ほかの職員のモデル・手本になる」というカテゴリーの割合が3位となっている。40代のミドルリーダーは、全回答で2位の「新任・後輩・若手の指導・励まし・フォロー」の割合が低く、「コミュニケーション能力・説明能力」の割合が高かった。これらの分析結果から、組織の中でミドルリーダーが果たす役割に関する認識が年齢によって異なるため、ミドルリーダーを育成するための研修を計画・実施する上で、年齢によるニーズの違いを考慮することが重要であると考えた。また、同じ質問に対する回答をミドルリーダーの勤務経験(他園での勤務の有無)別に分類してみると、「他園での勤務経験がない」ミドルリーダーは、「新任・後輩・若手の指導・励まし・フォロー」「保育・仕事を円滑に進める力」の割合が高かったが、「他園での勤務経験がある」ミドルリーダーは「計画力・実行力・カリキュラムマネジメント力」と「個々の保育者の個性・能力を認める関わり」の割合が高いという結果を得た。

第三は、新任に対する質問紙調査結果から、勤務する園の状況(同僚性、専門的成長、設置者の理解、組織の改善に向けた開放性、公平性、仕事の効率性、革新性等の組織風土について10項目、各項目とも「非常に高い」から「低い」の5段階の選択肢)は、ミドルリーダーが全般にやや厳しい受け止めをしていることに対して、新任は比較的肯定的な回答が多かった。特に、「教職員間に学び合う関係がある」は、「非常に高い」と回答するミドルリーダー18.8%に対して、新任は49.4%である。「保育者としての専門性を高めていく雰囲気がある」は、「非常に高い」(16.3%)と回答するミドルリーダーに対して、新任は45.8%であった。また新任は、「あなたが保育の中で抱えている問題は何ですか。」という質問に対する回答(自由記述)を分類してみると、「子ども・保育」(69.9%)「自分」(12.7%)「保護者」(9.2%)「教職員間」(5.2%)であった。さらに、新任の保育の中で困ったときの相談相手としては、「園長」12.0%、「主任」16.3%に対して、先輩45.8%と圧倒的に高く、身近にいる「先輩」の存在が大きいことが分かった。園の規模や職員構成にもよるが、身近にいる「先輩」は、ミドルに相当すると考えられる。

以上、これらの質問紙調査結果を受けて、ミドルリーダー育成のための研修システムの構築に向けて、以下の提案をした。

第一の提案は、ミドルからミドルリーダーになっていく過程を支える研修システムの構築である。ミドルリーダーに求められる資質能力は、子どもや保護者に保育の第一線で直接関わる教員としての資質能力以外に、若手職員に気を配り相談に乗り、若手のモデルとなって適切な指導ができる資質能力も期待されている。また仕事の推進役としてのリーダーシップが求められ、自分の仕事以外に他の教職員の様子を把握し見通しをもって全体の仕事をまとめていく力も必要

になる。一人のクラス担任として仕事から飛躍的に仕事の内容や種類が増大し、多様で複雑な役割を担うことになっているという現実を踏まえ、保育実践の熟達者を目指してきた教員が、徐々に園の保育実践の中核となっていく過程をどうサポートしていくかという、長いスパンを見据えた、また組織づくりの視点から個々の教員の資質能力向上を考えた研修システムの構築が重要である。

このため、第二は、ミドル(中堅教員)からミドルリーダーになっていく、あるいはミドルリーダーに求められる資質を磨いていく場として、園内研修をコーディネートしていく役割を担うことを提案した。ミドル(中堅教員)がミドルリーダーとしての資質を身に付けていくためには、これまでやってきた保育実践をベースにしてレベルアップしていく視点が重要であり、その意味で、園内研修をコーディネートする役割を担うことの意義は大きい。「ミドルリーダーだからできる」あるいは「やらなければならない」というわけではない。当然、ミドルリーダーひとりではできない。園長や主任等のサポートも必要である。また、共に保育実践の中核を担っているミドル(中堅教員)の協力も必要である。おそらく、ミドル(中堅教員)は、ミドルリーダーと共に園内研修の計画を立てたり、話し合いの場を構成したりすることを進めることにより、徐々に園内研修をコーディネートしていく力を身に付け、ミドルリーダーとしての資質を身に付けていくと考える。

第三の視点は、新任が幼稚園教員として専門性を磨きつつステップ・アップしていきことができるよう、見通しをもって安定した新任の指導の場をつくっていくことである。ミドルリーダーという役割があるわけではなく、実際には学年主任や研究主任として仕事を遂行する中で、新任の指導をしていると思われる。しかし、こうした場合は、同時に新任に対する指導を通して、リーダーとして必要な資質を身に付けていくことができる。ミドルやミドルリーダーは、新任に教えながら、改めて保育の奥深さを学び、視野を広くもつようになっていく。なお、新任の研修の場を構成する際に大切にしたいことは、新任が安心して仕事ができる、新任の学びたいことに沿って目標を設定し、研修プランを立てる、新任と共に振り返りながら研修の成果を確認する等である。このことは、ミドルリーダーとして役割として求められている、教職員間の関係を調整し安定した人間関係をつくること、教職員間で目的を共有しながら実践を重ねていくこと、実践を一定の期間をもって振り返り、評価、改善を図ることにつながる。

ミドルリーダーは、若い教職員と園長等の管理職との中間に位置する。園行事などの園全体の活動では率先して活動しながら、園組織の雰囲気や文化を創っていく存在でもある。多くのミドルリーダーは、クラス担任をもちながら、しだいに園全体の動きに視野を広げ、リーダーとしての資質を身に付けていくことになる。すなわち、日々の実践を重ねながら園組織づくりに参画し、「目的の共有」と「プロセスの共有」について学んでいくことになる。これらを踏まえ、それぞれの職務を遂行しつつ、ミドルからミドルリーダーになっていく過程に焦点を当て、教師間の「関係の質」を改善し開かれた組織風土を作っていくことこそが、研修システム構築の前提として重要である。

なお、これらの研究成果は、リーフレット「幼稚園・認定こども園におけるミドルリーダーの実態と育成のための提案」としてまとめ、主に協力いただいた調査園に配布した。リーフレットに示したことは、ミドルリーダーは、日々の保育実践の中核を担っている、新任にとってミドルやミドルリーダーはモデルであり目標である、ミドルは後輩に保育を教えながら、改めて保育の奥深さを学び、ミドルリーダーとしての力量をつけていく、ミドルリーダーには、変化に応じて、自分の味方・考え方を立て直していく力が必要、園の課題を乗り越える革新的なアイディアは、日々の実践の中にあるという提案である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 12件）

1. 著者名 神長美津子	4. 巻 611
2. 論文標題 遊びの環境と保育者の役割	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 キリスト教保育	6. 最初と最後の頁 pp.6-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神長美津子	4. 巻 612
2. 論文標題 保育の基本と保育者の専門性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 キリスト教保育	6. 最初と最後の頁 pp.6-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 松原千明・中橋美穂	4. 巻 68
2. 論文標題 保育園創設期における保育者の多様性をいかす体制づくりのプロセス	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大阪教育大学紀要 総合教育科学	6. 最初と最後の頁 pp.61-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 白井智美・中橋美穂	4. 巻 67
2. 論文標題 教育の質保証と教師教育の連関：シンガポールの幼児教育者育成システムにみる「可視化」を手がかりに	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大阪教育大学紀要 総合教育科学	6. 最初と最後の頁 pp.39-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 佐原信江・中橋美穂	4. 巻 39
2. 論文標題 保育指導案作成における実践の研究 - アクティブ・ラーニングを中心に据えた授業の工夫 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 エデュケア	6. 最初と最後の頁 pp.1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 橋本祐子	4. 巻 609
2. 論文標題 友だちとのいざこざを解決する能力の発達と援助(1)幼児期からの発達の連続性と方向性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 キリスト教保育	6. 最初と最後の頁 pp.6-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本祐子	4. 巻 610
2. 論文標題 友だちとのいざこざを解決する能力の発達と援助(2)自分たちで解決する力を育てるために	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 キリスト教保育	6. 最初と最後の頁 pp.6-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山瀬範子・東野充成	4. 巻 11
2. 論文標題 保育者養成における「子ども理解」の批判的検証	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 國學院大學 人間開発学研究	6. 最初と最後の頁 pp.45-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 野本茂夫・池田行伸・石川清明・夏秋英房・山瀬範子	4. 巻 11
2. 論文標題 家庭で子育てをする保護者の実情・実態と保護者支援の手がかり	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 國學院大學 人間開発学研究	6. 最初と最後の頁 pp.79-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 神長美津子	4. 巻 6
2. 論文標題 幼稚園教諭・保育教諭に求められる資質・能力	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 保育教諭養成課程研究会 幼稚園教諭・保育教諭のための研修ガイド	6. 最初と最後の頁 pp7-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大方美香・大沢裕・山瀬範子	4. 巻 6
2. 論文標題 幼稚園教諭・保育教諭の成長と研修	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 保育教諭養成課程研究会 幼稚園教諭・保育教諭のための研修ガイド	6. 最初と最後の頁 pp.33-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 廣井雄一	4. 巻 11
2. 論文標題 社会福祉施設での保育実習を通じた学生の成果と課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 國學院大學 人間開発学研究	6. 最初と最後の頁 pp.15-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 神長美津子	4. 巻 -
2. 論文標題 質の高い教育・保育を実現する組織	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 平成30年度文部科学省委託研究「幼稚園教諭・保育教諭のための研修ガイド」	6. 最初と最後の頁 7-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中橋美穂	4. 巻 67号
2. 論文標題 教育の質保証と教師教育の連関-シンガポールの幼児教育者育成システムにみる「可視化」を手がかりに-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大阪教育大学紀要	6. 最初と最後の頁 39-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 廣井雄一	4. 巻 4号
2. 論文標題 新任教員に対するサポート内容に関する考察 - 私立幼稚園を中心とした園長と新任教員の意識の相違に注目して -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 保育教諭養成課程研究	6. 最初と最後の頁 15-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 橋本祐子・中橋美穂	4. 巻 41
2. 論文標題 幼稚園・認定こども園におけるミドルリーダーの実態に関する研究 - 質問紙調査に対する私立園の回答分析から -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 エディケア	6. 最初と最後の頁 5-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 神長美津子	4. 巻 48-1
2. 論文標題 幼児教育の質を問う	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 幼児教育じほう	6. 最初と最後の頁 6-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計20件 (うち招待講演 7件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 神長美津子・野本茂夫・日浦直美・橋本祐子・中橋美穂・山瀬範子・廣井雄一
2. 発表標題 教員の専門性と園内研修 - 園内研修に関わる研究動向を踏まえて -
3. 学会等名 日本乳幼児教育学会第29回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野本茂夫・神長美津子・日浦直美・橋本祐子・中橋美穂・山瀬範子・廣井雄一
2. 発表標題 教員の専門性と園内研修 - 従来型の園内研修と今、求められる教員の専門性 -
3. 学会等名 日本乳幼児教育学会第29回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 日浦直美
2. 発表標題 人権感覚が問われる場面での保育者の対応 human equalityの伝達に関する保育者の反応
3. 学会等名 日本保育学会第72回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平林祥、岩淵善美、廣瀬聡弥、中橋美穂、埋橋玲子
2. 発表標題 大阪府における私立幼稚園等園長のリーダーシップに関する意識調査 - 幼児教育の質向上システムOPARK (オパーク) の開発に関連して -
3. 学会等名 日本保育学会第72回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 箕輪潤子、中橋美穂
2. 発表標題 砂場における幼児の遊びと育ち(1)空間の形成と子ども同士のかかわりについての検討
3. 学会等名 日本保育学会第72回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中橋美穂、箕輪潤子
2. 発表標題 砂場における幼児の遊びと育ち(2)保育者の記録における「人とのかかわりの育ち」をみる視点
3. 学会等名 日本保育学会第72回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 東野充成・片山悠樹・山瀬範子・都島梨紗・上地香社・神長美津子
2. 発表標題 保育者養成と子ども理解
3. 学会等名 日本子ども社会学会第26回大会 テーマセッション
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北野幸子・岩立京子・酒井智子・中橋美穂・七木田敦
2. 発表標題 園における保育臨床相談をどう進めていくか - 現職保育者の専門性向上を支える視点から -
3. 学会等名 日本乳幼児教育学会第29回大会 学会企画シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 日浦直美
2. 発表標題 保護者とのコミュニケーション 子育て支援における保育者の課題と役割
3. 学会等名 大阪府四条畷市教員研修会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋本祐子
2. 発表標題 園内研修のもち方～保護者への発信を考える～
3. 学会等名 大阪市私立保育連盟第2回テーマ別研修（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 神長美津子
2. 発表標題 専門職としての保育者と保育することの原点
3. 学会等名 日本保育協会保育科学研究所（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山瀬範子
2. 発表標題 園長の考える園内研修の課題
3. 学会等名 2018年度日本乳幼児教育学会第28回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 日浦直美・堀田正央・萩原元昭・金田利子・川喜田昌代・岡本弘子
2. 発表標題 人権感覚が問われる場面での保育者の対応 乳幼児期のESDにおける本研究の意義
3. 学会等名 日本保育学会第71回
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 堀田正央 日浦直美・岡本弘子・金田利子・川喜田昌代・酒井教子・萩原元昭
2. 発表標題 人権感覚が問われる場面での保育者の対応 -human equality の伝達に関する保育者の反応-
3. 学会等名 日本保育学会第71回
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuko Hashimoto
2. 発表標題 Promoting children's social, emotional and moral development in Japanese early childhood classrooms.
3. 学会等名 Conference for Research in Early Childhood Education (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山瀬範子・神長美津子・野本茂夫・廣井雄一
2. 発表標題 幼稚園教員の抱く専門性向上のイメージ
3. 学会等名 日本保育学会第70回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 廣井雄一
2. 発表標題 中堅教員に求められる資質・能力～組織の差を基に～
3. 学会等名 日本乳幼児教育学会第27回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 日浦直美
2. 発表標題 今、保育者に求められていること
3. 学会等名 丸亀市幼児教育研究会 教育講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 神長美津子
2. 発表標題 研修の企画・立案の在り方
3. 学会等名 大阪府教育センター（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 神長美津子
2. 発表標題 魅力的で信頼される園づくりとカリキュラムマネジメント
3. 学会等名 第41回全幼研教育経営研修会（招待講演）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 神長美津子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 フレーベル館	5. 総ページ数 80
3. 書名 魅力的で特色ある園をめざして - よくわかるカリキュラム・マネジメントの進め方-	

1. 著者名 神長美津子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 小学館	5. 総ページ数 98
3. 書名 3・4・5歳児の指導計画	

1. 著者名 橋本祐子・西本望	4. 発行年 2019年
2. 出版社 光生館	5. 総ページ数 174
3. 書名 子ども家庭支援論	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	日浦 直美  (hiura naomi)  (80181056)	関西学院大学・教育学部・教授    (34504)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	小田 豊  (oda yutaka)  (50024998)	聖徳大学・公私立大学の部局等・教授    (32517)	
連携研究者	野本 茂  (nomoto shigeru)  (10616890)	國學院大學・公私立大学の部局等・教授    (32614)	
連携研究者	橋本 祐子  (hashimoto yuuko)  (80228428)	関西学院大学・教育学部・教授    (34504)	
連携研究者	中橋 美穂  (nakahashi miho)  (30291876)	大阪教育大学・教育学部・准教授    (14403)	
連携研究者	山瀬 範子  (yamase noriko)  (00455057)	國學院大學・公私立大学の部局等・准教授    (32614)	
連携研究者	廣井 雄一  (hiro i yuuiti)  (80723709)	國學院大學・公私立大学の部局等・准教授    (32614)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------